

まつぼっくり



学校教育目標「主体的に学び合い、達成の喜びを自信に変え、ふるさとを誇りに思う児童の育成」

水泳の授業 安全に！

今年もプールの季節が近づいてきました。子どもたちの多くがプールに入るのが好きです。しかし、泳ぐのも好きかというところではありません。私も小学生の頃、プールに入るのは好きでしたが、泳ぐのは嫌いでした。みんなでぐるぐる回る洗濯機や逆跳び込み（今は禁止）は大好きで、夏休みは毎日学校のプールに通っていました。暑いときはもちろん気持ちいいし自由に楽しめるからです。



プールの壁をゴシゴシ

ここ数年は地球の温暖化により、昔では考えられなかったプールでの熱中症やプールサイドでのやけどなど危険なことが増えてきました。寒いとき・暑すぎるとき・雷のおそれがあるときは、子どもの安全が一番ですので中止になります。しかし、水泳の授業は大切です。水害時における命を守る力にもなるかもしれません。泳げることに越したことはないのです。水泳は、教育課程の中に組み込まれています。そのため、毎年プール掃除を行います。業者委託ではなく、学校職員と子どもたちとで行います。とても大変な作業です。もう30年以上前のことになりましたが、玉名の小学校で体育主任をしていました。ちょうど雲仙普賢岳が噴火した頃です。有明海を越えて火山灰が玉名の地まで降り注いできました。プールには屋根がありません。きれいに澄んだプールの水の中に火山灰が降り注ぐのです。火山灰は小さな粒ですが、顕微鏡で見るととがった形をしています。目に入るととんでもないことになります。私は担当として、毎朝毎夕、浄化槽の確認と機器への珪藻土の投入やプールの塩素濃度の確認をしていました。降灰がやむと水中掃除機でプールの底に沈んだ火山灰を吸い上げます。1時間かけてほとんどの火山灰を吸い上げてほっとしていると、そのとたんに火山灰が降り始めます。たちごっこでした。水泳の授業では子どもたち全員にゴーグルをはめさせ、目の安全を確保した上で行いました。

プール掃除から始まり、日々の管理、火山灰の吸い上げと授業を行う以前のことには大きな時間を割かれていました。体育主任になって初めて知ったことです。今では学校のプールではなく他の施設のプールを使用し、指導も業者委託する学校も出てきました。費用面・安全面など、いろいろな角度から検討していろいろな形態が出てきています。

今年度も子どもたちが安全に水泳の授業に取り組めるよう、複数体制での授業や日々の健康管理など学校としてやっていけることはしっかりやっていきます。各ご家庭においても睡眠・食事・毎日の健康管理など、よろしく願いいたします。



プールの底をゴシゴシ